

札幌IBDクリニック



左から田中浩紀院長、室川麻希診療部長、那須野正尚副院長、長澤英幸副院長、島崎洋副院長。「当院の名称にちなんで、愛称を「SAPICL(さびくる)」と名付けました。IBDによる悩みを忘れられる生活へ。それが私たち「さびくる」の願いです」

「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」の専門クリニック 難病と共に生きる患者の毎日を一人三脚で全力サポート

消化管に炎症が起きる炎症性腸疾患（IBD）という病気を抱える人が増えている。IBDは「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」のことを指す総称。潰瘍性大腸炎は大腸の粘膜に、クローン病は口から肛門までの全消化管の中で主に小腸や大腸に、慢性的な炎症や潰瘍が生じる原因不明の病気。どちらも下痢や腹痛、血便などが主な症状で、国が医療費を助成する指定難病の対象だ。

2020年9月に開院した札幌IBDクリニックは、潰瘍性大腸炎とクローン病、これら2つの病気を専門的に診療するクリニック。21年12月現在、500人を超える潰瘍性

大腸炎患者、300人を超えるクローン病患者が通院している。田中浩紀院長は「残念ながら現在の医療技術において、IBDを完治させることはできません。いったん炎症が落ち着いても、ふり返すことが多いです。一方で、薬物治療や検査機器の目まぐるしい進歩により、通院しながらも普通の社会生活を送っている人が増えてきています。豊富な経験と専門性の高い知識、技術を持つスタッフが、治療と学業や仕事の両立を目指し、IBDと共に生きる患者さんを全力でサポートします」と力強く話す。

正確な診断のために胃大腸内視鏡検査に加え、小腸大腸を観察する消化管超音波検査、主に小腸を観察する小腸バリウム造影検査、カプセル内視鏡検査、バルーン小腸内視鏡検査にも対応。また、治療の選択肢が飛躍的に増加する中、生物学的製剤による治療や炎症の原因となる白血球などの血球成分を取り除く白血球成分除去療法にも対応し、個々の患者に合わせたオーダーメイドの内科的治療を提供する。田中院長は「どの薬剤を選択するかは薬の特徴や副作用、費用や患者



「病院らしくない」内装デザインで、患者の不安や心配をやわらげ、何でも気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けている



炎症の原因となる白血球などを取り除く血球成分除去療法の専用室。血球成分を吸着する、特殊なフィルターやビーズが入った医療機器を用いる。1回約1時間、週1〜2回で計10回治療する

さんの生活スタイルなども考慮する必要があります。私たちは病気の説明に重点を置き、患者さんと一緒に治療方針を考えていきます」と説明する。

「コロナ禍による環境の変化で、おなかに不調を感じている方はいませんか？腹痛や下痢、血便はIBDのサインかもしれません。少しでも異変に気付いたら、我慢せずに早めに受診することをお勧めします」（田中院長）。

院長 田中 浩紀

1999年札幌医科大学医学部卒業。札幌医科大学医学部附属病院第一内科入局。市立室蘭総合病院、札幌厚生病院IBDセンター主任部長などを経て、2020年9月札幌IBDクリニックを開院。日本消化器病学会認定消化器病専門医。日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医。日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医。医学博士

INFORMATION

所在地 札幌市中央区南19条西8丁目1-18 山鼻ドクタータウン2F
☎011-213-0397
診療科目 内科、消化器内科、胃腸内科
診療時間 月・土 9:30~12:30 14:30~17:00
火・木・金 9:30~12:30 14:30~18:30
※受付は診療終了15分前まで
休日 水、日、祝日
駐車場 有（3施設共用で12台）
アクセス 市電「山鼻19条」停下車徒歩5分、じょうてつバス「南19西11」停下車徒歩5分
院長 田中 浩紀
H P <https://sapicl.com/>

